プログラム名

東京慈恵会医科大学麻酔科専門研修プログラム

募集定員

２1名

研修期間

４年

プログラムの特徴

専門研修基幹施設である東京慈恵会医科大学附属病院（本院），専門研修連携施設である東京慈恵会医科大学葛飾医療センター（葛飾），東京慈恵会医科大学附属第三病院（第三），東京慈恵会医科大学附属柏病院（柏），富士市立中央病院（富士）において，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供する.「患者の周術期医療にチームの一員として積極的に参加し，患者や外科医へのサービスを向上させる．」という意識を持ち，自分の仕事にプライドや尊厳を感じることのできる，十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する.

当専門研修プログラムのすべての運営方針は，各領域の責任者で構成されるプログラム管理委員会によって決定される．プログラムの運営方針は以下の①から⑥に要約される.

① 多彩かつ負担の少ないローテーション

□研修期間である4年間（48ヶ月）のうち，専門研修基幹施設（本院）での研修を24ヶ月とする．その中には、集中治療室（2ヶ月），ペインクリニック（2ヶ月），緩和医療（2ヶ月），急性疼痛管理（1ヶ月），救急部（1ヶ月）の研修を含む.

□専門研修連携施設での必修研修は計12ヶ月とし，葛飾医療センター，第三病院，柏病院での研修はそれぞれ4ヶ月とする.

□残りの12ヶ月は選択研修とし，富士市立中央病院での研修も含め，専門研修基幹施設と連携施設にて研修を行い，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する.

□全ての施設は後述するように，地域密着型病院から高度先進医療，三次救急指定病院といった特色を有しており，多彩な経験を積むことができる.

②実践的な講義の実施

□ほぼ毎日，朝の始業前に勉強会を開催する．内容は問題指向型かつディスカッション方式による症例検討会，一般的な知識の講義，抄読会などと多岐にわたる.

□施設附属の図書館はもちろんのこと，オンラインジャーナルへのアクセスなどが整備されている．これらを利用し多くは専攻医が中心となり，上級医の指導のもと朝の始業前勉強会の準備と発表を行う.

□主に夕方に開催される病院主催の医療安全・感染対策研修会に参加することが義務付けられている.

③専攻医全員出席によるカンファレンスの実施

□主に土曜日に，基幹施設・連携施設で研修を行っている全専攻医を対象にしたプログラム全体カンファレンスを開催する.

□このカンファレンスでは関連他科との合同症例検討に加え，国内外を問わず外部からの講師を迎えた講演，さらには実際に手を動かすワークショップなどを実施する.

④メンター制

□研修期間中は専攻医1人につき，ローテーションごと（施設異動ごと）に1人のメンターがつく.

□メンターは臨床的な事項のみでなく，人間関係にいたるまで幅広い内容の相談相手となる．また，年度ごとの評価は後述する方法で行うが，それとは別にテクニカルスキルとノンテクニカルスキルの習熟度について，数カ月の異動ごとにメンターが評価を行い，きめ細やかな支援を可能にする.

⑤学術活動への支援

□メンターは担当専攻医とともに，学会参加・発表を企画する.

□研修期間中に麻酔科関連学会に2回以上の発表を行うことができるように，上記メンターが指導を行う.

□指導医の一人を学術活動担当とし，全専攻医の学術活動を俯瞰して，専攻医間に学術活動度の不均衡が生じないように調整を行う.

⑥研修プログラムの質の管理

□必要に応じ，専攻医，専門指導医，専門医からの提案により，プログラム管理委員会による検討を経て研修プログラムの改善を行う．月1回開催する専攻医のみが出席する専攻医会議，全専門医が参加するスタッフ会議をプログラム改善提案の場とする.

□専門研修指導医は教育に関する講習会に参加する．プログラム統括責任者は指導医の教育講習会への参加状況を把握し、不十分と考えられる場合は参加を促す.